

県内経済〈6月〉

概

況

県内経済は、一部に弱さが残るが、全体として持ち直している

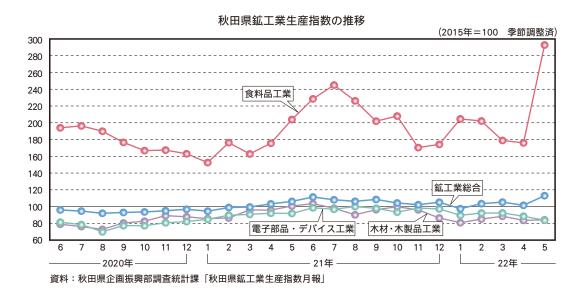
機械金属、木材の生産は前年を下回ったものの、電子部品は前年を上回って推移している。建設は、住宅着工が前年を下回ったものの、公共工事は前年を上回った。個人消費は弱いながらも持ち直しの動きとなっている。雇用情勢は改善の動きが続いている。

産業別の動向では、電子部品の生産額は、電気自動車(EV)向けや5G関連が好調を維持し、3か月連続で前年を上回った。機械金属の生産額は、輸送機械で半導体不足などの影響により、3か月ぶりに前年を下回った。木材の生産量は、普通合板(5月)が6か月連続で前年を下回ったほか、製材品も2か月ぶりに前年を下回った。公共工事請負額は、2か月ぶりに前年を上回り、年度累計でも前年を上回っている。地元大手(12社)の建設受注額は、官公庁工事が振るわず、2か月ぶりに前年を下回った。住宅着工は、2か月連続で前年を下回った。住宅着工は、2か月連続で前年を下回っ

た。個人消費は、新車乗用車販売台数が中国・上海のロックダウン等による部品供給の停滞が影響し、13か月連続で前年を下回ったが、小売店販売額(5月)は3か月連続で前年を上回っており、弱いながらも持ち直しの動きとなっている。

有効求人倍率は前月比0.02ポイント低下の1.50倍となった。新規求人数は前年比2.6%減となり、5か月連続で前年を下回った。事業主都合離職者数は前年比24.1%増となり、3か月ぶりに前年を上回った。

企業倒産件数は3件、負債総額は2億 6.500万円であった。



2022.8 あきた経済 21

電子部品

生産額、高水準を維持

6月の生産額は前年比8.4%増となり、3か月連続で前年 実績を上回った。

スマートフォン向けは、中国のロックダウン(都市封鎖)の影響などで足踏み状態にあるものの、車載向けや5G関連は好調が続いており、総体では高水準を維持している。

その他品目別では、主力のセラミック・コンデンサやコイルは増勢を強めているものの、産業向け液晶パネル、半導体素子は減少が続いている。

なお、4-6月期は前年同期比9.1%の増加、今年上半期 は同4.6%の増加となった。



機械金属

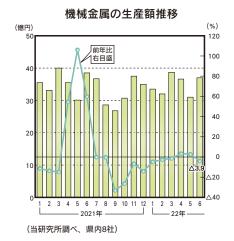
生産額、3か月ぶりに前年比減少

6月の生産額は前年比3.9%減となり、3か月ぶりに前年 実績を下回った。

ウエイトの高い輸送機械は、長引く半導体不足とコロナ感染拡大による部品調達の遅れにより底を脱していない。その他民需関連では、金型は回復傾向にあるものの、産業機械、 建機部品とも減少が続いている。

公共工事関連では、水道部品は好調を維持しており、低迷 が続いていた橋梁・鉄骨にも持ち直しの兆しがみられる。

なお、4-6月期は前年同期比0.4%の増加、今年上半期は同0.2%の増加となった。



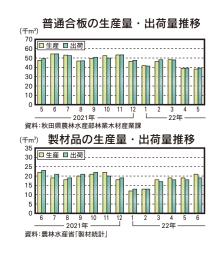
木材業

普通合板、製材品とも生産・出荷減

全国的に、原材料の供給不足は緩和方向にあるものの、木 材製品の価格高止まりや住設機器等の納期遅延等が影響し、 持家需要は低迷、新設住宅着工戸数全体も伸び悩んでいる。 本県でも普通合板、製材品とも生産・出荷減が続いている。

5月の普通合板は、生産量が前年比19.4%減と6か月連続で前年を下回り、出荷量も同20.7%減と3か月連続で減少した。在庫量は同12.1%減と22か月連続の減少となった。

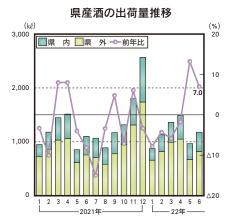
6月の製材品は、生産量が前年比4.5%減と2か月ぶりに減少し、出荷量も同17.4%減と6か月連続で前年を下回った。 在庫量は同横這いと16か月ぶりに前年比マイナスを脱した。



酒造業

出荷量、2か月連続で前年比増加

6月の清酒出荷量は、前年比7.0%増となった。新型コロ ナウイルスの感染状況が落ち着き業務用需要が回復に向かっ たことから、2か月連続で前年を上回った。出荷先別では、 県内向けは同4.6%増、県外向けも同8.1%増と、ともに増加 した。県外の主な出荷先別では、東北5県が同11.0%増、東 京は同12.8%増、北海道も同17.8%増と、いずれも二桁の増 加率となった。種類別では、特定名称酒は同8.9%増となり、 普通酒も同5.3%増となった。特定名称酒の内訳では、純米 酒が同18.1%増、本醸造酒は同11.3%増と、ともに前年を大 幅に上回ったほか、吟醸酒も同2.9%増と前年を上回った。



資料:秋田県酒造組合

建設業

国や県等が増加し、2か月ぶりに前年を上回る 公共工事

6月の公共工事請負金額は、市町村等が減少したものの 国や県等が増加し、前年比34.6%増と2か月ぶりに前年 を上回った。4月からの年度累計実績は前年同期比6.3% 増となった。

一方、当研究所調査による地元大手12社の6月の新規 受注額は、前年比5.9%減の2,603百万円となり、2か月 ぶりに前年を下回った。うち民間工事は、電気機械器具製 造業の工場増築の大口受注があり同151.3%増と伸びたが、 官公庁工事は、同34.1%減と前年実績を下回った。4月 からの年度累計実績は前年同期比22.8%減となった。

公共工事前払金保証実績

(単位:件、百万円、%)

区 分	6月	前年比	4~6月	前年同期比
件 数	302	△2.6	795	△7.2
請負金額	23,389	34.6	60,828	6.3

資料:東日本建設業保証㈱秋田支店

地元大手企業12社受注額

	(単位:百	万円、%)		
区 分	6月	前年比	4~6月	前年同期比
官公庁	1,545	△34.1	4,789	△19.4
民 間	1,058	151.3	3,218	△27.5
合 計	2,603	△5.9	8,007	△22.8

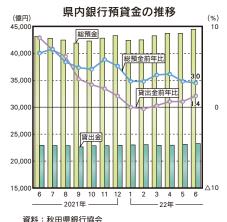
(当研究所調べ、県内12社)

金 融

貸出金の前年比増加率が拡大

6月末の県内銀行の預金は、前月末比766億円増加し、前 年比でも3.0%の増加となった。貸出金は、前月末比137億 円増加し、前年比でも1.4%の増加となった。預金、貸出金 とも前年を上回って推移しているが、預金の伸び率は前月よ りも鈍化した一方で、貸出金の伸び率は拡大した。

5月の倒産件数 (負債総額1千万円以上)は3件(前年比2 件増)、負債総額は2億6.500万円(同516.3%増)となった。 倒産件数は2012年11月以降116か月連続で一桁台または〇 件で推移している。負債総額は、負債額5千万円未満の小口 倒産が1件のみであった前年同月との対比で大幅に増加した。



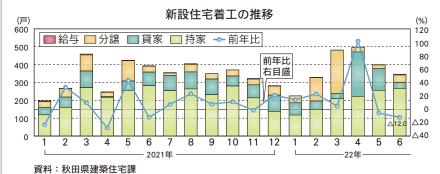
住宅着工

着工戸数、2か月連続で前年比減少

6月の県内新設住宅着工戸数は、346戸 (前年比47戸減、12.0%減)であった。分譲 住宅と給与住宅は増加したものの、貸家が 大幅減となったほか、持家も減少し、2か 月連続で前年を下回った。

利用関係別では、持家が267戸(前年比 15戸減)、貸家が32戸(同44戸減)、分 譲住宅43戸(同10戸増)、給与住宅4戸 (同2戸増)となった。 持家は、3か月ぶりに前年を下回った。 貸家は秋田市で大幅に減少したほか、北秋 田地域、由利地域でも減少し、3か月ぶり に前年を下回った。分譲住宅は、2か月ぶり りに前年を上回った。

地域別では、県北は、持家と貸家、県央は持家、貸家、分譲住宅の着工が各々減少し、前年を下回った。県南は、貸家、分譲住宅、給与住宅が増加し、前年を上回った。



住宅着工動向

(単位:戸、%)

区分	2022年6月	前年比	22年1~6月	前年比
県北	58	△6.5	294	△10.6
県央	198	△21.7	1,518	21.9
県南	90	15.4	466	12.8
合計	346	△12.0	2,278	14.6

資料:秋田県建築住宅課

個人消費

弱いながらも持ち直しの動き

5月の小売店(商業動態統計主要6業態)販売額は、前年比2.9%増となり、3か月連続で前年を上回った。

内訳をみると、家電大型専門店(前年比5.8%減)は前年を下回ったものの、コンビニエンスストア(同10.4%増)、ドラッグストア(同4.8%増)、ホームセンター(同1.4%増)、百貨店・スーパー(同0.6%増)

は前年を上回った。

6月の新車乗用車販売台数は、中国・上海のロックダウンなどの影響で部品供給が停滞したことから、前年比5.4%減と13か月連続で前年を下回った。

内訳をみると、軽乗用車が同5.3%増と13か月ぶりに前年を上回ったものの、登録車は同13.6%減と13か月連続で前年を下回った。

小売店(商業動態統計主要6業態)販売額・新車乗用車販売台数の推移



資料:経済産業省、秋田県自動車販売店協会

6月の新車乗用車販売台数 (単位:台、%)

区	分	販売台数	前年比	
新車乗用車	総販売台数	2,259	△5.4	
登	録車	1,173	△13.6	
	普通車	573	△9.5	
	小型車	524	△13.8	
	輸入車	76	△34.5	
軽	乗用車	1,086	5.3	

資料:秋田県自動車販売店協会

県内個人消費関連指標(前年比)(単位:%)						
区分	2022年3月	4月	5月			
①消費者物価指数	2.4	3.7	3.7			
②勤労者名目賃金	△3.6	1.5	△1.1			
②到为有有日貝 亚	△3.0	1.5	Δ1.			

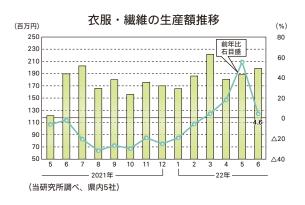
資料:①秋田県(総合指数、秋田市) ②秋田県(事業所規模5人以上)

衣服·繊維

生産額、4か月連続で前年比増加

6月の生産額は、前年比4.6%増となった。 首都圏の百貨店等の販売が増加したことな どから、4か月連続で前年を上回った。

受注は、婦人服などが増加し、3か月連続 で前年を上回った。一方、物価上昇にともな う加工費の引上げは難航している。



雇用

改善の動き続く

6月の有効求人倍率(季調値)は、前月比 0.02ポイント低下の1.50倍となった。常用 の内訳では、一般は同0.05ポイント上昇の 1.48倍、パートは同0.02ポイント上昇の 1.11倍となった。

新規求人数は前年比2.6%減となり、5 か月連続で前年を下回った。産業別にみる と、製造業は同11.9%増となった。「繊維」、

「電子部品・デバイス・電子回路」で減少したものの、県北地域で操業開始を予定している企業から大口求人があった「木材・木製品」などで増加した。非製造業は同4.4%減となった。「運輸,郵便」、「生活関

連サービス, 娯楽」で増加したものの、資材の調達難で工事を休止した「建設」や、新型コロナの影響が続く「宿泊, 飲食サービス」などで減少した。

新規求職者数は前年比1.0%増と、2か 月連続で前年を上回った。

事業主都合離職者数は前年比24.1%増 と、3か月ぶりに前年を上回った。

地域別雇用状況(パートを含む常用)を みると、新規求人数は県央で減少したもの の、県北、県南で増加した。有効求人倍率 は県北が最も高く1.62倍、県南が1.34倍、 県央が1.22倍となった。

業種別・新規求人内訳および新規求職者数(全数)

(単位:人、%)

(+12 -) (()					
	区 分	2022年5月	前年比	6月	前年比
新	規求人計	7,560	△5.7	9,754	△2.6
	製 造 業	1,040	36.7	1,211	11.9
	食 料 品	181	46.0	161	8.1
	繊維	148	23.3	160	△20.0
主	木材・木製品	58	152.2	132	100.0
	電子部品・デバイス・電子回路	209	48.2	153	△5.6
要	電気機械器具	73	55.3	74	23.3
業	情報通信機械	14	1,300.0	12	71.4
種	非 製 造 業	6,520	△10.2	8,543	△4.4
	建設	1,123	△3.4	1,339	△8.0
の	情報通信	42	10.5	40	△27.3
内	運輸,郵便	287	△32.8	401	25.3
訳	卸売,小売	1,199	△11.6	1,339	△10.9
-	宿泊,飲食サービス	538	△13.6	1,101	△6.6
	生活関連サービス,娯楽	259	△12.8	326	6.5
	医療,福祉	1,474	△4.4	1,790	△8.8
	サービス	884	△9.2	1,243	△5.0
新	規 求 職 者 数	3,925	11.7	3,523	1.0
有	効 求 職 者 数	16,733	△4.2	16,456	△2.4

資料:秋田労働局職業安定課 (注) 臨時・季節を含む

有効求人倍率および事業主都合離職者数

(単位:倍.人.%)

(単位:倍、						<u>倍、人、%)</u>
	区分			4月	5月	6月
有効	常	一 般	1.40	1.39	1.43	1.48
求人	用	パートタイム	1.36	1.13	1.09	1.11
倍率	=	È数 (季調値)	1.51	1.53	1.52	1.50
事	事業主都合離職者数		244	276	129	175
前 年 比		0.4	∆38.3	△6.5	24.1	

6月の地域別雇用状況 (パートを含む常用)

(単位:人、%、倍、ポイント)

	(単位・人、%、信、パイント					
	区分	新規求人数		有効求人倍率		
	区 万		前年比		前月比	
	県 北	2,040	0.7	1.62	0.05	
	県 央	4,433	△8.9	1.22	0.03	
	県 南	2,123	6.5	1.34	0.02	
Ī	合 計	8,596	△3.3	1.33	0.03	

(注) 臨時・季節を除く